

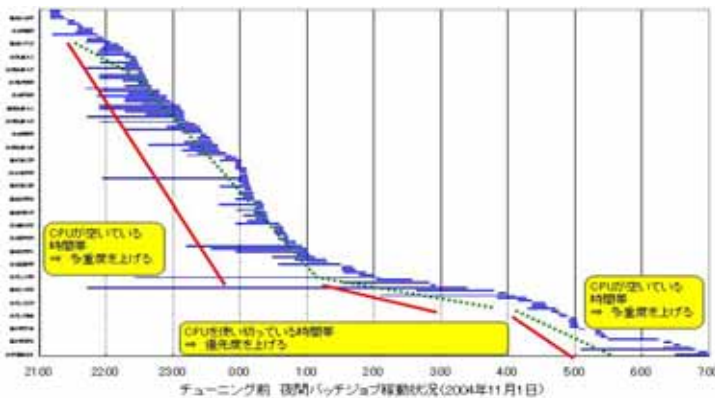
バッチ処理性能改善 お客様事例

大手製造業A社

GS21 600シリーズ(富士通メインフレーム最上位機種)

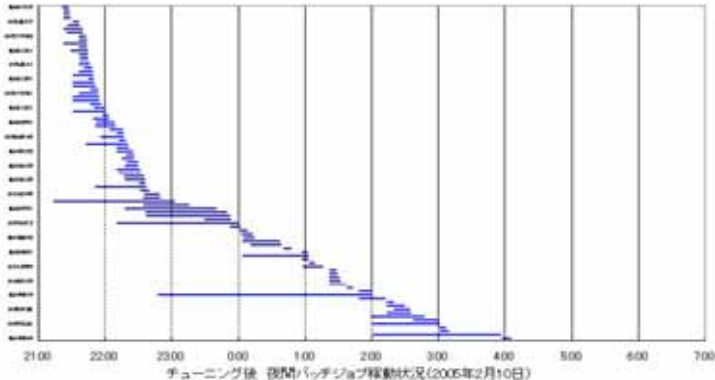
夜間バッチ業務の遅延が、オンライン業務の開始や他システムにまで影響。
運用グループの24時間対応も限界。抜本的な性能改善により価値創造システムへの脱皮。

【改善前】 グラフの見方: ジョブの開始時間～終了時間を横線で示します。



大手製造業のお客様で、20年以上使い続けている基幹システム。ダウンサイジングした数10のサーバともデータ連携しています。
夜間バッチ業務は21時に開始、翌朝7時はオンライン業務が起動します。
左のグラフから、夜間バッチ業務は翌朝7時まで実行されていることがわかります。実際には4時以降のバッチジョブは「ほとんどDBを更新しない」ので「多くのオンライン業務は起動できる」よう工夫していると聞いています。
しかし、トラブル発生時にリカバリをする時間的余裕はほとんどありません。
夜間バッチが2時間短くなれば効果は大きい。これを目標に抜本的な性能改善に取組みました。

【改善後】 これが私達のいう「バッチ処理の性能改善」です。

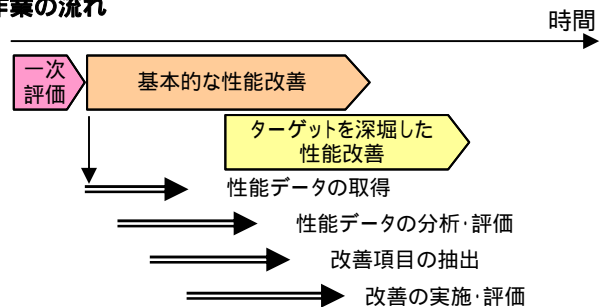


改善後、3時間の時間短縮が実現できました。実はあと1~2時間短縮する見込みがたっています。なぜこの時点で1次終了なのか、理由は3点あります。
CPU使用率がほぼ100%になった
短くすることは目的でなく、価値を生み出すための手段である
今後何かあったときの対応のために取っておく
この後、オンラインサービス時間の延長や、サーバへのデータ配信時間を早める等の業務改善を行っています。
作業開始から改善後までの作業期間は約2ヶ月。

性能改善のポイント

- ポートフォリオ等のツールを使い、システムの課題を明確にし、「システム環境 + ユーザ業務」の両輪で改善を推進します。
- システム環境
 - システムパラメタの見直し
 - AIM環境の見直し
 - ユーザ業務
 - 処理時間、CPU時間の長いプログラムの改善
 - データベースの見直し
 - プログラム動作環境の見直し
 - その他
 - テープ運用の改善
 - エクセルバッチの適用

作業の流れ



性能診断サービスのメニュー

対象: GS21シリーズ、GSシリーズ、PRIMEFORCEシリーズ

スピード、現場、目に見える成果を大切にします

運用コスト削減	ホストを安くリプレースする戦略、ダウングレード戦略とその実践。
バッチ処理性能改善	夜間バッチ業務の処理時間短縮。バッチ処理の運用制限の解除。
オンライン処理性能改善	オンラインレスポンスの改善。処理件数増加への対応。
システム統合	複数のホストを統合し、コストを大幅削減する戦略、性能見積りとその実践。
仮想記憶不足の改善	仮想記憶不足によるトラブルの抜本的解決。